

海外短期プログラム参加者 報告書		※ 帰国後 15 日以内に提出してください。 ※ 提出された情報は、海外留学 HP に掲載します。(色のついた部分は掲載しません)
留学先大学名	同済大学 (国名: 中国)	
参加プログラム名	Tongji University Sumer Program	
プログラム期間	2019 年 8 月 22 ~ 2019 年 8 月 29 月	
学部/学府・年次	共創学部	2年次
参加に要した費用	協定に基づく授業料免除の有無 → <input checked="" type="radio"/> 有 無 「有」の場合、免除額を記入してください()	
	航空運賃はいくらかかりましたか? (¥42,240)	
	その他相手先大学に納入した費用を具体的に記入してください(例:教材費、宿舍費、オプションの見学旅行など) なし	
このプログラムを選んだ理由	上海という土地にひかれていたのと同時に、都市と地域の持続可能な開発について学べるいい機会だと感じたため。加えて、他大学の学生との交流を通して自身の視野を広げ、刺激を受けたかったため。	
進路の予定	①. 就職 (時期: 4月から / ()月から) ②. 大学院進学 ③. その他(具体的に:)	
1. 参加プログラムと大学について		

<p>プログラム (カリキュラム 等)の概要に ついて</p>	<p>Lectures</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. The Shape and Growth of the Towns & Villages in East Asia 2. Transportation issues 3. Clean energy and Environment issues 4. The challenge of ageing society 5. Modern Manufacturing and Communication 6. Chineses Language 	
	<p>Visit & trip</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Historical buildings-the bund,etc 2. Shanghai Museum/Shanghai Planning Museum 3. Old / New town near Shanghai 	
	<p>Presentation & Discussion</p>	<p>Presentations given by each student, 5 minutes per student. The topic should be:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction about the cultural heritage of your country 2. Your ideas on Sustainable urban & Rural Development 3. Imagination on Sustainable Life Style 4. Impact of AI on the sustainable Urban & Rural Development 	
<p>主催大学の サポート体制 について (語学面／勉 学面／精神 面／住居・生 活面など)</p>	<p>・語学面 日本に親しみのある現地の先生・学生、参加者が多く、語学面でのサポートは求めれば得られた。</p> <p>・送迎 空港への送迎やバスの手配など、手厚いサポートを受けられた</p> <p>・住居・生活面 ホテルや大学のゲストハウスなど、複数の宿に泊まったが、どれも質が高いうえに、料金は現地大学負担であった。加えて、朝食や昼食、時には夕食なども多くがすでに計画されており、食費も想像以上に要しなかった。スケジュールの過密度と参加者の疲労具合を考え、柔軟に予定を組んでくれた。</p>		

<p>プログラムおよび大学に対する感想</p>	<p>大学のプログラムに対するサポートが大変大きいと感じた。先生をはじめ、現地のボランティア学生からの献身的なサポートはプログラムの充実度をさらに高いものにしてくれた。</p> <p>プログラムの概要に関しては、想像以上にレクチャー、グループディスカッションの数が少なく、フィールドワークと自由時間が多かった。レクチャーから学んだこともあるが、それ以上にフィールドワークで訪れた場所や、多様なバックグラウンドを持った学生と触れ合う中で感じ学んだことが多かった。</p> <p>10日間という短い間だが、とても濃い時間を過ごすことができたと思う。今後の自分の志を迫る上で必要な熱意への刺激や、交友関係も築くことができた。体験を通して、様々なことを感じ、学べた充実したプログラムだった。</p>
<p>同じプログラムを希望する人々へのアドバイス</p>	<p>プログラム自体は英語で行われるものの、アジア圏からの参加者が多く、日本人の割合はその半数を占めていた。どこまで英語を使用するかは、自身の意識によって左右されると感じたため、参加する際は日本語を使いすぎないという決意をしていくとよいと思う。</p> <p>また、現地でレクチャーをしてくださる先生方は、学生の専門に興味を抱いて下さっており、学問分野が重なっている生徒とは進んでディスカッションをしていた。都市と地域の持続可能な開発に興味がある学部生は、専門を深める、もしくは意見交換をするのに適した環境だと感じた。</p>
<p>2. 事前手続き(ビザ申請などが必要であった場合)</p>	
<p>ビザの種類</p>	
<p>ビザ申請先</p>	
<p>必要書類、手続き方法</p>	
<p>手続きに要した時間</p>	
<p>その他必要な事前手続きがあれば記入してください</p>	

3. 日常生活	
日常生活の概要、感想	上海という土地は、福岡と大変似ており、とても過ごしやすかった。食べ物も比較的日本人の口に合うと思う。しかし、現地の人とコミュニケーションをとろうとする際、英語で話しかけてきても中国語でかえってくるケースが多かった。また、現地のお手洗いにはトイレトペーパーがないことが多いため、ティッシュなどを持参すべき。 支払いの際には、キャッシュレス文化が日本とは比べ物にならないくらい進んでいたのも印象的だった。
生活費(全期間)及びおおよその内訳	¥15,128 (食費、地下鉄・タクシーなどの交通費、お土産代)
日本から持参した方がよいもの(PCや変圧器等の要不要も)	変電機は不要。最終プレゼンの際にパワーポイントを作成するため、パソコンは持参したほうが良い。
日常生活(治安対策を含め)に関するアドバイス	治安は非常によく、特別心配する必要はないと思う。しかし、念のために所持金のすべては持ち歩かないようにしていた。
お金の管理や受け取り(銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など)について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。	暮らすのではなく、短期間の留学であれば現金をお勧めする。私は福岡空港で両替していった。携帯を通して代金を払うキャッシュレス化が進んでいるものの、中国銀行の口座を保持していなければならないため、かえって面倒だと感じた。
4. 宿舎、生活環境	
宿舎の種類(○印をつける)	○大学の寮・ホテル・その他()

立地	大学の授業を受けるところからも近く、付近には地下鉄駅もあり良い立地だった
伝えたい地域情報、生活情報	大気汚染は全く感じる事がなく、きれいな空気であった。
5. その他の特記事項	